

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100381		
法人名	ちば設備工業株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ 1階		
所在地	千歳市桂木3丁目1-2		
自己評価作成日	平成25年1月29日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0171100381-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり近隣は緑も多く、季節感は十分に満喫でき自然と触れ合う機会をつくっています。家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切に、入居者様が笑顔の多い生活がおくれますように又、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し出来るだけ個性のある支援を行っています。当ホームの運営理念にも謳われている様に「支えあい、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭に日々、頑張っています。また、利用者様が重度化した場合において、医療機関との連携がスムーズに図れるよう、病院、調剤薬局との連携活動を密に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR千歳駅から車で10分、桂木3丁目バス停から2分のところに位置し、家族等の訪問に便利な自然に恵まれた閑静な住宅地にある。玄関前にゆったりしたスロープがあり、事業所内は全フロアがバリアフリーで手すりを設置し、床は、転倒してもダメージを軽減するクッションフロアとなっている。回り廊下はリハビリ運動の歩行に利用している。職員は、認知症の人の経験や感情を認め、共感して接するバリエーション療法を用いて、利用者との付き合いを大切に笑顔で接し、利用者も楽しそうに冗談を交じえて会話しながら安心して過ごしている。千歳市の同業者でつくる「絆の会」に参加、毎年盛大な大運動会を催して、利用者や地域の中で共に生きる喜びを実践し、同時に研修や相互訪問などサービス向上の基盤となっている。運営者は自身の母の介護の体験と設備業者としての経験を活かして、地域の中で職員と共に歩む理念のもと、地域や行政の行事に参加して、地域社会との連携を深め、利用者の住み慣れた場所で支える事業所の運営に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関や休憩室、皆が集う場所に掲示しており、ミーティングの時に唱和して、実践に向け取り組んでいます。	「支えあい、喜びあい、地域の中で共に歩む」という地域密着型の理念を玄関、リビングルーム、事務所に掲示し会議や打ち合わせ時に唱和している。職員は理念をよく理解して、利用者と共に喜び合う楽しい生活を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の子供神輿や町内会で行われる出前講座に参加。町内会館の清掃等に参加しています。また、千歳市納涼盆踊りなど市の催しにグループホームの団体で参加しています。	町内会の子ども神輿を見に行ったり、市の盆踊りに同業者(絆の会)と共に参加している。運動会に回覧板などを通じて住民の参加を促している。実習生を受け入れ、認知症に関して地域住民の相談にのっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中で地域の方との交流の際や、運営推進会議を通じて認知症の方への理解や支援の方法を深めています。また、町内会からの依頼により、介護施設についての説明会を開催しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い日常の活動報告をしています。参加されている町内会役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。	2ヶ月に1度、利用者・家族、包括支援センター職員、地区民生委員、町内会役員の参加で実施している。事業所の活動状況、家族の意見・要望の交換、歌会等を行ってサービス向上に活かしている。会議の報告書は、行事の写真入りでわかり易い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村へは主に施設長・管理者が行政との連絡や情報収集に努めています。千歳市の地域包括ケア会議に出席してます。高齢者支援課の方が訪問に来ることもあります。千歳市民病院のSWさんが見学に来たりもします。	行政への対応は施設長、管理者が率先して行い、市の保健福祉部を訪問し運営状況や現場の実情を報告し、相談に乗ってもらい、アドバイスを受けながら協力関係を築いている。高齢者支援課、市民病院のソーシャルワーカー等の見学や訪問がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を行わない事も含め職員全員が身体拘束を行わないケアを実践しています。また、職員ミーティングの際やその都度、身体拘束について確認合っています。	管理者は日常、口答で実地教育をしている。職員は言葉による身体拘束にも十分留意・注意している。徘徊者の保護のため玄関前扉はセンサー感知をしている。防犯上、非常口と夜間は玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習会に参加して理解浸透に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全員は把握していないが、入居者様の中に成年後見制度を利用されている方もいます。必要と思われる方には活用できるよう支援しています。現在も生活保護で身寄りの無い方がおり、成年後見制度の活用を進めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に重要事項などの説明を十分行い、理解、納得した上でサインして頂いています。契約後や契約内容の改定に関しての疑問等には随時説明して理解、納得を得れるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしています。日々の生活の中で行動・言動・表情によりその方の思いを汲み取る努力をしています。また、ご家族とは来館の際、個々にお話して近況等報告し相互理解に努めています。	利用者の意見、要望は日常の様々な接遇機会に、家族は来所時等において、機会ある度に時間を制約せず充分会話を交しながら、意見・要望が表出されるように努めている。分かりやすいところに意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は日常的に受け入れ、管理者は日常的に職員個々とコミュニケーションをとるように努めています。また、必要事項は職員ミーティングの際に意見や提案を伺っています。	管理者は職員との意見交換を大切にしており、職員が意見や提案をしやすい雰囲気がある。職員から利用者の生活記録が膨大になりすぎて使いづらいたの意見を受けて、即刻全員で話し合っ、必要な情報が記載できるシンプルで使いやすいものに改訂した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働ける様に努めています。平成24年4月よりパート職員の昇給制度を導入。長期間勤務している職員を評価しています。また会議で話し合い、働きやすい環境作りを常に考え取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が法人内外の研修を受講出来るようにしています。千歳市における地域密着型サービスの団体「絆の会」において、介護、医療、接遇マナー等の講師をお招きして介護事業所に勤める職員のスキルアップ研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千歳市における地域密着型サービスの団体「絆の会」において毎月定例会を実施しています。絆の会における勉強会や外部講師をお招きし、相互の意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいます。ちとせの介護医療連携の会では介護と医療の連携を模索しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より待機の方とは定期的に連絡をさせていただき、話を伺える機会を設けており、顔なじみの関係を作るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望申請書(ADL・認知症症状・既往歴・生活歴・在宅歴・施設歴・ご家族の意向)にそって入居前にご家族の要望、意見を十分伝えて頂き、入居後は面会時やモニタリング等の際に、入居者様の日常生活の様子、身体的な事をお伝えして、相談しています。気軽に話して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人やご家族の思い、状態を確認して、必要なサービスに繋がる様に柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中から楽しみながら生活して頂ける様に、職員間で常に考え仕事をしています。重度化がすすむ中からも日常生活において「できること・できないこと」を話し合い、見極め、一方的ではなく共感する事が多い関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族の共有時間がより持てるように努めています。なかなか来ることができないご家族もいますので、職員が親身になり寄り添っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの美容室、お墓参り、温泉入浴などの外出支援や遠くのご家族、兄弟、知人、友人に電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりを継続出来るように支援しています。	友人・知人や理美容院の訪問がある。家族の同意の下、介護タクシーを利用してなじみの理美容院等へ一人で行く利用者もいる。また遠方の家族、兄弟、知人、友人への電話連絡や手紙交換ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者様がリビングで過ごす事が多く、スタッフ交えて会話や歌を唄ったり、食後、他の入居者様の食器の片付けをされたり、支えあって生活出来る様支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いに行っています。また、医療が必要になり退去された場合においても、必要に応じて支援させていただく旨をご家族に伝え、その時々で、こちらの状況を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報と入居希望申請書により、習慣、趣味等を把握し日々の関わりから、言葉、表情で本人の意向を汲み取り、カンファレンス等で検討しています。	日頃の会話や関わりの中から利用者の意向を把握し、困難な場合は表情やしぐさ、家族からの情報で補い、希望を叶えることができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望申請書やご家族、ご本人からの情報を集めたり、日々の会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身の状態を見極め、できる事、できそうな事を支援しています。見守りし待つ事、一緒に喜ぶ事、感謝する事も職員は心得ており個人記録、送りで日々の情報の共有をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見や思いなどを聞ける場合は、ご本人に聞き取りしています。ご家族の意向も聞き取り、モニタリング・カンファレンス・ミーティングで職員の見解のもと、介護計画を作成しています。	各ユニットの介護計画作成者が中心となり、利用者・家族と話し合い希望を聞いて、職員みんなで協議し介護計画を作成している。通常は三ヶ月毎に見直し、場合によってはその都度見直す。利用者、家族の署名、押印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気づき等、日常の様子をプランに沿って記入し各勤務帯で申し送りし情報の共有が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、洗濯、買い物など基本ご家族様にお願いしていますが、遠方や携わることご家族が居ない方に対し、又ご家族の負担軽減から、往診対応、薬局との連携、クリーニング委託など行い柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方によるお餅つき大会、町内会館の清掃に参加しています。また、町内会行事の千歳学出前講座に参加し健康の促進を図っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご相談の上、往診を受けています。その他、係りつけ医に定期受診しています。著変がある際はご家族と相談の上、情報提供書を持参し受診、緊急時は管理者が対応し支援しています。歯科往診・マッサージの訪問もあります。	かかりつけ医に継続受診し依頼があれば職員が同行している。家族などの希望・同意を得て主治医を提携病院に変えている。介護・看護・医療の3者が相談・受診の面でスムーズに連携できる仕組みを整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを受けております。また、入居者様に特変があった場合は、都度、訪問看護ステーションや係りつけ病院へ相談できる体制を整備し、適切な受診対応を心がけております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、ご家族・医療機関の相談員と連携しながら、早期退院に向けて話し合いを行っています。また、管理者は「ちとせの介護医療連携の会」の理事を務めており、率先的に包括的な関係作りを実践しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明します。また、重度化した場合でも協力機関と連携しながら、訪問看護サービスを活用し、グループホームでの生活を支援しています。	契約時に重度化対応指針をもとに、事業所ができる範囲(看取り対応できる)について利用者・家族に説明を行い同意を得ている。利用者の長期入院後も看取りに対応し優先的に受入、訪問看護師の支援を受け職員のスキルアップに努めて在宅酸素の取り扱いができる。	重度化時における医師・看護師・職員の理解、協力を求めるとともに、医療連携のネットワーク情報を築く努力に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変マニュアルがあり、職員がいつでも見れる場所に保管しています。職員全員、救急救命講習を受け介護事故と急変時の発生に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東日本大震災や室蘭、登別、伊達で発生した停電事故を教訓に、災害時には地域の資源としてグループホームが地域の避難場所になれるように計画を立て直しています。また火災においては、スプリンクラーを早期に設置し年2回の避難訓練を実施しています。	年2回夜間も想定して、消防と地域住民の参加のもとで防災避難訓練を実施している。消防から地域住民へ具体的な支援方法を示して、協力体制ができています。スプリンクラーを設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者様のプライバシー保護を重視して気分を損ねる言葉掛けは行わない様、十分配慮し対応しています。また、バリデーション療法を参考に共感して接すること(同調)を率先しています。	利用者の尊厳を認め言葉かけに充分配慮している。利用者の経験や感情を認め、気持ちを汲み取り共感する。たとえば利用者が不安なときには一緒に不安になるバリデーション療法を取り入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ、希望や願いを引き出せる様に取り組んでいます。表現が上手く出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さない様に自己決定できるよう働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせられるように、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し、出来る限り個々の希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選び、身支度はご本人が自由に選べるようにしています。お化粧品・アクセサリー・ヘアスタイルは個々に合わせて支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(配膳・後片付け)などを手伝って頂いたり力を発揮出来る場を設ける様に工夫をしています。日常の中で何気なく何が食べたいか聞き取り、可能な限り献立に反映しています。	利用者は出来る範囲で買物、盛り付けや片付けを職員と共にしている。献立に利用者の希望を反映して、誕生日には寿司などの外食を取り入れていつもより食欲がでる。音楽を聴いたり会話をしたりで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を工夫して提供しています。水分が難しい入居者様に対しては甘味料などを使い対応しています。また、使用しやすい食器選びを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に応じ継続的に支援しています。また、就寝前に義歯を外していただき清潔を保持しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っています。オムツの使用はご本人の状態に合わせて控えており、極カトイレで排泄できるように取り組んでいます。	排泄予チェック表を活用して利用者のしぐさや態度を見てトイレに誘導している。昼間はリハビリパンツを使用し夜間はオムツを使用する利用者もいるが、できるだけトイレによる排泄支援に努めている。失敗があっても恥ずかしい思いをしないように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のある物を取り入れたり、乳製品、オリゴ糖を入れたり工夫している。水分は確認表を利用しています。入居者様の状態に合わせて、10時と15時に体操を実施しています。便秘傾向と強い利用者様は医師と相談しながら下剤で調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけし、意思確認し、入居者様のその日の気分や状況により行っています。入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。	入浴は週2回、13:30~15:00が原則である。利用者の状況により清拭したり、朝シャワーに対応して支援している。夏には、氷水で足浴をしてクールダウンするなど熱中症対策もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じて休息しています。就寝時間や起床はご本人のリズムに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や服薬後の変化の確認に努めています。また、入居者様に変化があった場合は医療機関へ相談できる体制を構築し、調剤薬局、訪問看護ステーション、医療機関の相談員へ、都度ご相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、テレビ鑑賞、音楽鑑賞、宗教など個々にあった楽しみが出来るよう支援しています。踊りや詩吟を習っていた方はホームの行事で披露して頂いています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や介護タクシー、美容室などと協力し、利用者様の気分や希望に応じて外出できるように努めています。希望により近隣のスーパーに出かけられるように支援して、季節ごとに行事計画を立てながら、出かける機会を作っています。	家族、兄弟、知人、職員等の協力で理美容院、買物、図書館、スーパーに出かけている。外部の夏まつり、納涼盆踊り、神社祭、病院まつり、大運動会等に出かけて楽しんでいる。季節に合わせた事業所の行事を計画し外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはご家族の了解を得て、小額の所持金を持っていただいています。買い物の支払いもしています。事業所で管理している方でも外出時はご自分で支払うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いています。一連動作、作業ができない部分はお手伝いさせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一つ一つの窓が大きく日差しが十分に入り、明るく、暖かくゆったりとしたリビングでくつろげます。生活音にも気を配り食事中は音楽を流しています。季節に合わせた飾り物などを飾っています。近隣は自然が多く季節感があり、外出時は季節の訪れを感じる事ができます。	リビングは窓が大きく明るくて日差しが差し込んでいます。温・湿度の管理も良く、ゆったりと安心して過ごせる空間になっている。雑飾りや植物がおかれ、壁に季節に合わせた飾り物や職員との合作による張り絵、行事の写真等が飾られ親しみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士がソファで談話したり、テレビ鑑賞したり、食卓テーブルにて塗り絵、折り紙、パズル等されり、廊下歩行運動をされている方等、個々に共用空間で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して理解を得ながら、使い慣れた物を持参して頂き、安心して心地よく過ごせるように努めています。	利用者、家族が、利用者本位の住まいにふさわしい家具や使い慣れた備品を持ち込み飾り付けている。居室は利用者自身の住まいとなり、思い思いの生活を楽しみ、安心、ゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しています。見やすい時計、日めくりカレンダー、トイレマーク等、必要に合わせて環境を整備し、安全に自立した生活が出来るように工夫しています。		